巻 頭 言

星空とイノベーション

株式会社 IHI　執行役員
技術開発本部　本部長
村上　晃一
Murakami Koichi

最近、私の郷里にほど近い、夜は明かりもまばらで星がとてもきれいに見える場所を訪れました。天の川は良く見えなかったのですが、それでも満天の星空を堪能することができました。肉眼で見ることのできる星の数は限られていますけれども、何百年もの人間の英知の積み重ねによって、遥か彼方の宇宙の出来事まで見えるようになってきたということは、すごいことだなとその時改めて思いました。しかしもっとすごいなあと思うことは、昔々の肉眼でものを見るしかなかった時代に、極めて正確に星の動きを読み取る工夫を重ねて、暦を作り、時計を作り、地図を作り、航海図を作り、大海原に乗り出していった人間の想像力と好奇心そしてその実行力です。慎重に自然を計測しその法則を見出す人がいて、その法則をこの地上に正確にからくりに再現する人がいて、からくりを大胆に試す人がいた。こうした偉大な先駆者がいたからこそ、今の時代が築かれていったのだと、心の底から敬服します。

例えば、IIC の基盤技術の一つである超音波探傷やアコースティック・エミッション（AE）。いったい誰が配管の検査に超音波を使ってみようと思ったのだろう、材料中に小さな小さな欠陥が発生、成長するときに音が出ると初めに想像したのはどういうきっかけだったのだろうかと思います。先駆者の後それを発展させていくことは非常に大事であり、むしろきちんとそれをみんなが使える状況にできたからこそ技術が進歩したと言えるのですが、それでもなお、初めて考えついた人、試してみた人というのは大したものだと思います。技術者ならば誰でもが一度は「世界初、人類最初の発想」なるものに思いを馳せるのではないでしょうか。是非 IIC の技術者の皆さんにもそうしたものに挑戦してみてほしいと思います。誰も思いつかなかった計測。皆が思わず声を上げる検査手法。きっと今号の IIC REVIEW にはそんな驚きの種が掲載されていることでしょう。

もっとも企業の挑戦は、世の中の何かの課題を解決することでビジネス、すなわち利益を上げる次の課題を解決するための礎を築くというサイクルを継続的に行うためのものでなくてはなりません。単なる「世界初、人類最初の発想」だけでは企業にとってあまり意味を成しません。世にいうイノベーションは「世界初、人類最初の発想」がビジネスに結びつくことを指します。発想を実現化し多くの人に使われる、愛されるしくみにして初めて価値があるのです。これはやはり一人二人の力で成し遂げられるものではなく、多くの人たちの知恵と努力が実を結んでこそのものであると思います。

IIC は慎重にものごとを計測し法則を見出し、その法則を利用してからくりを創り、ビジネスにするという一連の流れを具現化する企業です。お客様とともにイノベーションの創造に挑戦している企業です。今号の IIC REVIEW をお読みになった皆さん、驚きの種を一緒に育てイノベーションを一緒に興しませんか？